

平成 30 年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

いなりぎいせき 稲荷木遺跡

主催 公益財団法人かながわ考古学財団
共催 秦野市教育委員会

縄文時代後期の配石集落址

稲荷木遺跡の発掘調査

秦野市戸川に所在する稲荷木遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴い発掘調査を実施しています。

2016(平成 28)年 8 月から着手した調査において、縄文時代から江戸時代にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代では、敷石住居跡や竪穴住居跡などの居住域と、配石墓や土坑墓などの墓域、配石遺構などの祭祀域が確認され、これらからは多くの土器や石器などの遺物が出土しています。奈良・平安時代では、竪穴住居跡などが発見され、江戸時代では、1707(宝永 4)年の富士山噴火による宝永火山灰を埋めた「宝永火山灰の廃棄土坑(溝)」が発見されています。

特に縄文時代後期は、住居や墓、配石遺構などからなる多くの石を配した集落であり、さらに、集落の一部を削平し、盛土をするといった大規模な造成の様子もうかがえます。

これら先人達の足跡を、郷土秦野の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。



公益財団法人かながわ考古学財団



発掘調査状況



かながわ考古学財団調査報告 76 (2000 年) より

本遺跡で発見された縄文時代後期の集落は、敷石や周堤礫を用いた住居、配石墓や配石遺構など多量の礫を配した遺構からなるいわゆる配石集落址です。このような集落址が関東西部(群馬、埼玉・東京・神奈川西部)から中部高地(長野、山梨)などを中心に発見されています。

一方で集落中央の地面が削り取られ、周囲に盛土をするなど大規模な造成の痕跡も確認されました。これらは関東南東部にもみられる特徴です。

多量の大型礫を搬入したり、土地造成したりと当時の人びとはかなりの労力をかけこの集落を営んでいました。これらは、周辺の人々が力を合わせて暮らしていた証拠にもなります。

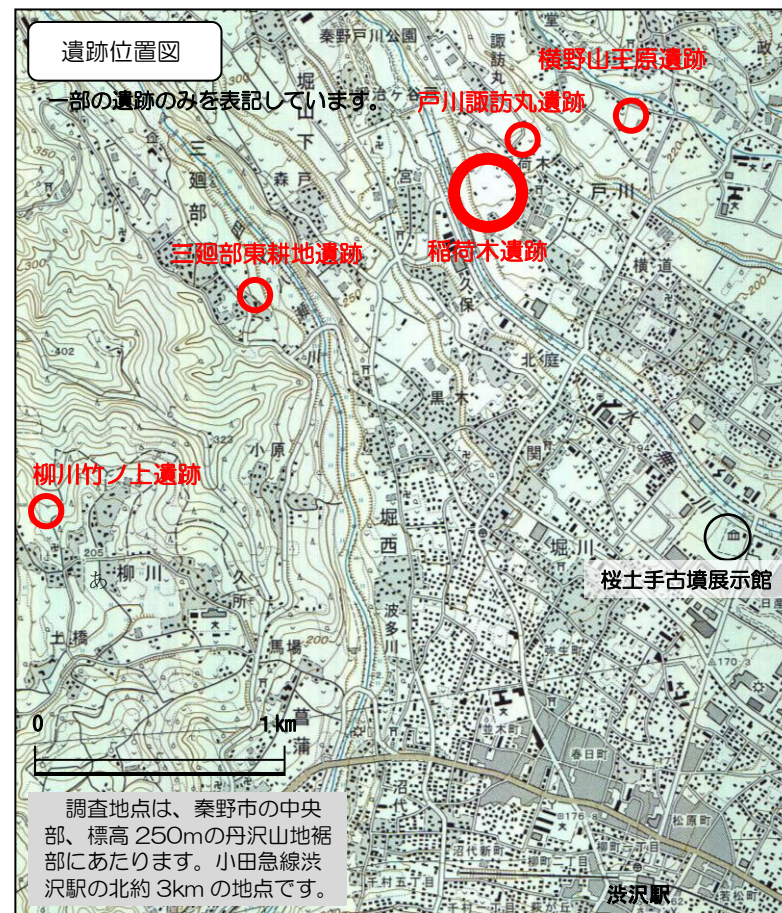
およその年代
35000年前 15000年前 2500年前 1700年前 1300年前 800年前 400年前 1500年前

旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世

* 矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。
* この内容は調査のものであり、今後の調査成果や出土品整理作業などにより評価を変える場合があります。



「地域の特色のある
埋蔵文化財活用事業」



測量・記録作業

発見された遺構や遺物は、土層の堆積などの記録をとりながら写真撮影や出土位置などの測量を行い、調査を進めています。



平成 30 年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

稲荷木遺跡見学会資料

2018 年 8 月 11 日
主催 (公財)かながわ考古学財団
共催 秦野市教育委員会
〒232-0033 横浜市中区中村町 3-191-1
TEL 045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp>